

◆ 2023 年 度 活 動 報 告 シ ー ト ◆

団体名：NPO法人 環境ネットワーク埼玉

26A-33

代表者：代表理事 星野 弘志

URL : <https://www.kannet-sai.org/>

1. 活動が必要とされた状況

埼玉県内の SDGs 目標達成においては、基盤となる環境保全が重要である。そのためには、さらに環境保全活動を活発化する必要がある。その一つの支援策として、環境活動を実践している関係者を一堂に介した、情報交換、相互交流及び情報発信ができる場が必要と考える。学生からシニアまで世代を超えた者が意見交換の場に参加することにより、連携、協働、パートナーシップの関係を創出し、環境活動が深まることが期待できる。

2. 活動の内容（実施時期、参加人数、活動内容など）

- ・ 第5回 SDGs エコフォーラム in 埼玉

～つながろう 広がろう 世代を超えて エコの環～

〈実施時期〉令和5年12月2日（日）10:00～16:30

〈会 場〉十文字学園女子大学

（Zoom ウェビナー・ミーティング）

〈参加人数〉268名（会場202名、オンライン66名）

〈主 催〉第5回 SDGs エコフォーラム in 埼玉実行委員会

※ 埼玉県地球温暖化防止活動推進員、自治体、環境団体、
企業等を構成員とし、企画・準備・運営を行った。

〈内 容〉

- ・ 基調講演「栄養の持続可能性という見方で、SDGs エコをながめてみよう」志村不二夫氏（十文字学園女子大学学長）
- ・ SDGs スピーチ 西武台高校 STEAM コース（高校1年生）
- ・ 埼玉県エコアップ認証事業所表彰式
- ・ 分科会 ①持続可能な食を考える ②生物多様性保全と地域の保護活動
③子どもの未来と省エネ
④生きることの豊かさへのポジティブマインドセットを考える
⑤若者が創造する脱炭素な未来



午前の子の様子



分科会の様子

3. 活動の成果

以前は、大学で開催してきた当フォーラムだが、コロナの影響も緩和され、今回は大学の協力を得て実施することができた。地域の市民や高校生、大学在校生、他大学生等多様な世代の参加を得ることができた。対面による意見交換等を通して、SDGs や脱炭素について自分事として捉える機会を創出し、SDGs 目標の達成に寄与することができた。

4. 今後に残された課題

今回もオンライン併用で参加する方式を取ったが、オンラインでの参加者が減少した。今後、参加方法のあり方について検討が必要である。また、現在、セミナー等のオンライン受講が手軽となっており、当フォーラムに参加する価値を高める必要があると感じた。そのためには、企画、広報や周知方法、連携の拡大等について工夫が必要である。